

この度はクラニシNT-616をお買い上げ下さいましてありがとうございます。
NT-616は種々の特徴を備えた1.9~50MHzのアンテナチューナーです。
本機の特長を知り、有効に利用して頂くためにも本取扱説明書をよくお読みください。

【特長】

- ・2台のトランシーバーを接続するため2個の入力コネクタを持っています。切り替えは前面で簡単に切り替えることができます。
- ・いろいろなアンテナを切り替えて使うためにアンテナコネクタを4個もっています。前面スイッチで簡単に切り替えます。
- ・DC12Vの外部電源を使用するとオートマッチングパワーレンジで使うことができます。
- ・前面パネルでアンテナチューナーの動作をON/OFFさせることができます。
- ・SWR専用のメーターを持ち、常時SWRを表示していますので簡単に読みとることができます。
- ・WARCバンドを含む1.9~50MHzまでのオールバンドで使用でき、また予備のチャンネルを2チャンネル増設可能です。

【定格】

測定回路

1: 周波数範囲	1.9~54MHz (予備チャンネル2)
2: 入出力インピーダンス	50Ω系
3: SWR測定範囲	1: 1~1:∞
4: 測定電力	0~200W (オートパワーレンジ)
5: 最大入力	200WPEP
6: 測定精度	FS.±10%

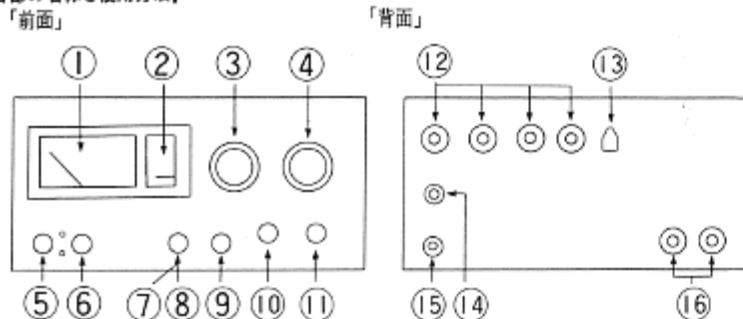
チューナー回路

1: 周波数帯域	1.9~54MHz
2: 出力インピーダンス	10~250Ω不平衡

機構・その他

1: 入出力コネクタ	M型
2: 寸法	235(W)×100(H)×250(D)mm突起物を含まず
3: 重量	約2.8kg

【各部の名称と使用方法】



- ① 進行波メーター：送信機の出力を表示するメーターです。
- ② SWRメーター：SWRを常時表示するメーターです。
- ③ トランシーバー・マッチング：チューナーの送信機側のマッチング用バリコンを調整するつまみです。

- ④ アンテナ・マッチング：チューナーのアンテナ側のマッチング用バリコンを調整するつまみです。
- ⑤ 入力セレクター：2台の送信機を切り替えるスイッチです。
- ⑥ パワーレンジスイッチ
(外部電源を使用したとき)
AUTO：20/200Wを自動的に切り替えます（オートパワーレンジ）
MANU：200Wレンジ固定になります。
(外部電源を使用しないとき)
20：20Wレンジ 200：200Wレンジ
- ⑦⑧ キャリブレーションボリューム(CAL・VR)キャリブレーションスイッチ・共用ツマミ(PULL・CAL/PUSH・SWR)：
このツマミはキャリブレーションボリューム⑦（回転動作）と、キャリブプレートとSWRの切替スイッチ⑧（前後動作）とを、共用しています。送信しながら、このツマミを手前に引出し(PULL・CAL)。時計方向に回して②SWRメーターをCAL点にセットし、その位置でツマミ前方をかく押し込みますと、(PUSH・SWR)。SWRメーターがCAL点より下方に移動し、その時の正しいSWRを表示します。(このSWR測定方式はキャリブレーションを早く簡単正確に出来るよう、当社で開発された、ワンポイントキャル方式です。)
- ⑨ チューナースイッチ
TUNER・ON (チューナーオン)：チューナーでSWRを最良の状態に調整します。
TUNER・PASS (チューナーパス)：チューナーが切り離され、送信出力を直接アンテナへ送り出します。
- ⑩ アンテナセレクター：4系統のアンテナを切り替えるスイッチです。
- ⑪ バンドスイッチ：チューナーの動作バンドを切り替えるスイッチです。
- ⑫ 出力コネクタ：4系統のアンテナを接続することができます。
- ⑬ 電源コネクタ：オートパワーレンジ用の13.8V(MAX15V)の外部電源を接続します。(オートパワーレンジを使用しないときは電源は必要ありません。)
- ⑭ ワイヤアンテナ端子：移動運用などでワイヤアンテナを使用するときにはここに接続します。(アンテナセレクターは“4”で使用します。)
- ⑮ アース端子：接地用端子です。特にワイヤアンテナなどを使用するときには必ず接地してください。
- ⑯ 入力コネクタ：2系統までの送信機を接続することができます。

【運用】

「チューナーの操作」

実際に電波を発射する前に次のことをよく確認してください。

- ・③真ん中 (12時)
- ・④真ん中 (12時)
- ・⑤入力セレクターを送信するトランシーバー側にします。
- ・⑥200Wレンジにします。(オートパワーレンジならばAUTO側)
- ・⑦⑧ ツマミを最少(MIN)まで下げ、前後方向スイッチは押込んでおく(PUSH・SWR)
- ・⑨TUNER・ON側にする。
- ・⑩使用するアンテナの番号にセット
- ・⑪送信するバンドにセット

- 1: はじめは10W以下程度の小電力で送信し、⑦・⑧キャリブレーションツマミを時計方向に回して②SWRメーターを中間程度に振らせておく。
- 2: SWRメーターの振れが少なくなるように③、④のツマミを交互に回します。
- 3: 少しずつ送信出力を上げて行きます。
- 4: 2、3の操作を繰り返し、最大出力まで上げてSWRメーターが1.0近くになるようにします。